



94th CRC Seminar

今回は、この3月に連大を修了し、現在、日本学術振興会海外特別研究員としてドイツ・マックスプランク研究所に滞在中の高橋大輔さんをお招きしました。高橋さんは、植物が凍結を経験することでさらに低い温度まで耐えられるようになる「氷点下低温馴化」の分子機構の解明という新しいテーマを設定して研究を行っています。研究紹介に加えて、ドイツと日本の研究システムの違いや生活面での「苦労話」などもお話いただきます。多くの皆様の参加をお待ちしています。

高橋 大輔 氏

Max-Planck Institute of Molecular Plant Physiology
Potsdam, Germany

植物の耐凍性を最大化する～氷点下温度馴化～
(+ドイツの研究環境を垣間見て)

Maximizing plant freezing tolerance～sub-zero acclimation～
(+ Getting a glimpse of research life in Germany)

時間：2015年12月22日（火）15:30～17:00

場所：総合教育研究棟（生命系）1階遠隔講義室

植物は低温馴化により凍結凍性を高めることが知られているが、それをより一層高める「氷点下温度馴化」と呼ばれる現象に関して、私が現在行っている研究と絡めてご紹介する。さらに、学位取得後に渡独して感じた日本との違いや研究所内の様々なシステム、現在どのような研究生活を送っているのかを写真も交えて紹介したい。

（問合先：河村 幸男：ykawa@iwate-u.ac.jp）